

自由に、やんちゃに経営者育つ



「社長としては社内の風通しをよくしたいと思っています」と樋口靖さん

甲州商人の流れをくむためか、甲府一高の卒業生には経営者が多い。

ゼネコンの熊谷組社長、樋口靖さん(64、1970年卒)。甲府一高はもともと男子校だったため、「バンカラで厳しい」というイメージを持っていたが、実際は「自由に規則に縛られず過ごしました」。

一番の思い出は伝統行事の「強行遠足」。1924(大正13)年から続く行事で、樋口さんのころは学校から長野県小諸市まで100キロを超える山道を、一昼夜かけて20時間以内で歩くというものだった。

運動部の生徒らは完走

をめざすが、樋口さんは「一番後ろの不良グループ」にいた。10月の寒い季節。友人5、6人とウイスキーの小瓶を手にしながら「人生って」などと夜通し話をしながら歩いた。毎回、コースの半分ほどにあたる八ヶ岳の野辺山でリタイア。「ゴールしたことはないんです」

東北大学・大学院で建築を専攻し、熊谷組に入社。東日本大震災当時は東北支店長だった。情報が入り乱れるなか、情報管理を一元化し、優先順位をつけて対応。病院などに資材を優先させたほか、津波で壊滅状態だった仙台空港を1カ月で復旧させた。

2013年、社長に就いた。休みの日は気分転換に土手を歩くが、「工事現場があると、つい目がいつてしまします」。

SMBC日興証券社長の清水喜彦さん(60、74年卒)は、三井住友銀行の副頭取だったとき、社長就任あいさつで銀行を訪れた樋口さんが、同窓

生だと初めて知った。「学年も違ったから接点なかった。今では一緒にゴルフもする仲です」

甲府一高時代、清水さんは弓道部で主将を務めた。国体など全国大会にも出場した。
2年夏の校内合宿。テニス部の生徒と「生意気だ」「何だ」と、ささいなことから流血の大げんかになった。停学も覚悟したが、9月の職員会議に乗り込んで「申し訳ありませんでした」と謝ったところ、おとがめなしで済んだ。

早稲田大学商学部には推薦入学し、会計学を専攻した。商社への就職を考えていたが、恩師の教授から「銀行に行けば、成功するか失敗するかのことちらかだ」と言われ、銀行に気持ちが傾いた。

若いころは人事調書で上司から「やんちゃ坊主」と書かれたこともあった。三井住友銀行副会長から15年9月にSMBC日興証券の副社長、今年4月、社長に就任した。「鬼の清水から、今は仏の清水です」と笑う。

甲府の実家にはあまり帰っていないが、今年4月に中心街で開かれた武田信玄をしのぶ「信玄公祭り」の武者行列に、甲冑姿で参加した。その写真を大切に持ち歩いている。

「部活動や強行遠足で、タフであることを学びました」と清水喜彦さん

